

竹原市内の県立高等学校の在り方に関する報告書

令和7年9月19日

竹原市内の県立高等学校在り方検討委員会

竹原市内の県立高等学校の在り方に関する報告書

令和5年11月に、広島県教育委員会は「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）（令和6年度～令和15年度）」の素案を公表し、今後10年間の県立高等学校の配置及び規模の在り方や再編整備の検討の方向性などを示した。

本市に所在する県立高等学校2校については、近年、少子化に加え、市立中学校及び義務教育学校の卒業生の約7割が市外の高等学校に進学することなどにより、定員割れが続いている。本市の子供の多くが、高等学校進学時に市外に出て行く状況にあることは、シビックプライド醸成への影響が懸念されるとともに、人口減少に繋がる要因にもなっていると考えられることから、令和6年1月25日開催の「竹原市総合教育会議」において、市が主体的に、求める後期中等教育の在り方について方向性を示すべきであるとの協議がなされ、地域の関係者や学識経験者で組織する「竹原市内の県立高等学校在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）」が設置されることになった。

検討委員会では、令和6年5月20日の第1回会議以降、市内の中学校・義務教育学校生徒とその保護者及び本市で成人を迎えた方々へのアンケート調査並びに市内の県立高等学校2校の校長先生へのヒアリング調査を実施し、それらの結果を踏まえながら、本市の高等学校まで見通した学校教育に期待する教育理念や、それを実現するのにふさわしい教育環境などについて議論を重ねてきた。なお、市内の高等学校生徒を対象とするアンケートについては、当該学校経営に支障をきたす懸念が残るとの意見があり、実施しないこととした。

この上で、検討委員会としては、市のめざす、「夢を持ち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことができ、地域とともに未来を切り拓くことのできる人材育成」のために、幼児教育から義務教育段階、そして高等学校教育まで一貫させた「探究的な学び」を推進することが肝要であると考えている。そのためには地域が一体となり、「竹原」というフィールドとその地域資源を積極的に活用してもらうなど、子供たちの「探究的な学び」を支援し、よく協働しながら「竹原」の学校を創り育て、さらに魅力ある「竹原」を共に創造していくことを通して、児童生徒が成長できるようにしていくことが重要である。

このように市をあげて子供たちの「探究的な学び」を推進していくためには、本市にある高等学校の規模を拡大し、一定程度の規模の学級や学年の集団を確保しながら、より充実した魅力的な教育活動を展開できるようにすることが必要である。検討委員会で議論を重ねた結果、市内の県立高等学校について、現在ある2校を廃止して、新しく高等学校1校を設置することが望ましいとの結論に至ったため、市に対し、次のとおり意見を提出するものである。

意見の要旨

次の7項目は、再編整備される新しい高等学校へ、本市に暮らす児童生徒たちや保護者、さらには地域住民や他市町の児童生徒たちの期待に応えられる教育環境が整備されるとともに、魅力的で特色ある教育活動を展開できるようにするため、検討委員会が、市から広島県教育委員会へ要望すべき事項並びに市としての取組事項を取りまとめたものである。

1 竹原市が期待する高等学校像について

生徒一人一人、そして教職員みなが、多様な他者とよく交流し協働しながら、果敢にチャレンジすることで自ら成長でき、「探究的な学び」をはじめ新たな時代に対応した学習や取組、カリキュラムを創り育てられる高等学校となるよう求めること。

2 特色ある教育活動について

各学校における教育活動については、校長の判断が必要となるが、「夢を持ち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことができ、地域とともに未来を切り拓くことのできる人材」を育成するためには、グローバルな視点を持ち、地域の活性化に資することができる「グローバル人材」の育成を目指すよう求めること。

また、このような人材を育成するためには、基礎学力の定着はもとより、「探究的な学び」を中心に据え、生徒一人一人のキャリア形成、多様な進路希望の実現が必要であるため、次の事項を実施するよう求めること。

(1) 「探究的な学び」の推進

- ・小学校から高等学校まで連携・接続させることで深める「探究的な学び」の推進
- ・グローバルな視座を得ながら、地域（ローカル）の課題解決を通し、未来創生に必要な課題発見力や実践力等を磨くことができる、グローバルの視点をもった課題設定の工夫
- ・様々な学校の生徒が一堂に会し、「探究的な学び」の成果を披露し、高め合う場（「探究フェスタ」など）の創設

(2) 一人一人の進路が実現できる資質・能力の育成

- ・「探究的な学び」を支える基礎学力の定着
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を活かした資質・能力の育成
- ・異文化間協働活動や学校間（異校種間）による英語ディベート大会の実施などグローバル教育の充実

(3) 様々な主体との連携による教育活動の推進

① 様々な地域資源（ヒト、コト、モノ等）との連携

- ・「竹原」の地域や風土、歴史を象徴する行事、イベントとの連携
- ・学校運営協議会を核とした地元住民、商工会議所等の地域団体との連携

- ・各小・中・義務教育学校の学校運営協議会との連携
- ・様々な知見を有する地元企業等との連携

②学校間（異校種間）連携

- ・生徒たちの発達の段階に即し、系統的で連続的、発展的なカリキュラムの実現
- ・①の地域行事や活動を活用した学校間の合同行事の開催
- ・周辺大学等との連携（出前授業や共同研究等、高大連携の充実）

(4)部活動の充実

- ・一定数の集団の確保による、チームスポーツや合同パフォーマンスなどが実施できる環境等の充実
- ・地域特性等生かした部活動の更なる充実（環境面や指導者の配慮）

3 学科、学級数、コースについて

設置学科、学級数等については、広島県教育委員会が県全体の生徒数、求められる教育内容等を総合的に勘案して決定するものであるが、竹原市が期待する学校像を実現するためには、ある程度の規模の集団の中で教育活動を行うことが必要であることから、学級数については、1学年3～4学級とするよう求めること。

また、学科については、「竹原」というフィールドを、十分に生かしてグローバルな課題と丁寧に向き合い、未来の社会の在り方と自らの生き方を探し出せる「探究コース」（仮称）の設置や、「探究的な学び」のプロセスを活かし、希望する大学等への進学を実現できるような新たな課題探究型の総合学科とするなど、生徒一人一人の在り方生き方、具体的な進路目標に応じた学びを実現させる教育環境と優れたカリキュラムを構築するよう求めること。

4 学校の設置場所について

学校の設置場所については、位置や環境、アクセス等を勘案し、検討委員会で議論してきたが、竹原高等学校又は忠海高等学校の校舎を活用することまでは意見が一致したが、どちらの学校とするかの結論を出すまでに至らなかった。

このため、学校の設置場所については、竹原高等学校又は忠海高等学校のいずれかとし、選定の際の参考となるよう、学校の特徴等について、以下に示す。

	竹原高等学校	忠海高等学校
位置	市中心部の竹原市竹原町に位置し、最寄駅であるＪＲ竹原駅から徒歩１３分程度。	市東部の竹原市忠海床浦に位置し、最寄駅であるＪＲ忠海駅から徒歩１５分程度。
最寄駅へのアクセス	（電車） ＪＲ三原駅から約３５分 ＪＲ広駅から約５０分	（電車） ＪＲ三原駅から約２５分 ＪＲ広駅から約６５分

敷地面積	39,105 m ²	38,006.21 m ²
環境	校舎周辺には、市役所や店舗など、市街地が広がっている。	校舎の眼前には瀬戸内海が広がり、自然が豊かである。
文教施設等の状況	・複合施設（※1）（図書館、市民ホール、美術ギャラリー等） ・地域交流センター（竹原、竹原西）	・地域交流センター（忠海、忠海東）
学校と地域の関わり	・総合的な探究の時間「KOGEN」 ・校外清掃、賀茂川清掃・竹原商工会議所による模擬面接	・総合的な探究の時間「NEXT」 ・清掃ボランティア（忠海駅前、エデンの海、大久野島慰霊碑） ・絵本読み語りボランティア ・フォレスト植林活動
災害警戒区域等指定の状況	洪水、高潮、津波	高潮、津波

※市公式HP、市ハザードマップ、各高等学校の学校案内、公式HP、学校要覧等の内容を参考に検討委員会事務局が作成

※1・・・令和11年10月開業予定。

5 使用校舎、教育環境等の整備充実について

施設等の老朽化対策はもとより、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、発表会など充実した協働、創造表現ができるスペースの設置や各教室、部活動室の改修など、本市が期待する高等学校像の実現のために必要と考えられる環境整備について、生徒や学校運営協議会の意見も踏まえ、実現するよう求めること。とりわけ、トイレや空調設備（校舎、体育館）の改善は必ず実施するよう求めること。

また、設備面のみならず、新たな学校の制服や校則等についても、生徒のニーズに配慮するだけでなく、その決定過程等にも生徒自身が主体的に関わることができる環境づくりにも配慮するよう求めること。

6 教職員の配置について

竹原市が期待する高等学校像、特色ある教育活動を実現するためには、教職員が持つ熱意と力量が重要であることから、それらを兼ね備えた教職員を配置するよう求めること。また、教職員が持つ熱意と力量を持続し、教育活動にその能力を発揮するとともに、カリキュラム・マネジメントを着実に実行していくには、管理職の適切なマネジメントが必要であることから、学校経営能力にとりわけ長けた管理職を配置するよう求めること。

7 特色ある教育活動を実現する上での竹原市に求める取組について

学校が「探究的な学び」を推進するうえで必要不可欠な地域資源や人材、企業等からの情報提供及び連携のため、地域・事業者・学校・行政の協力体制を構築すること。

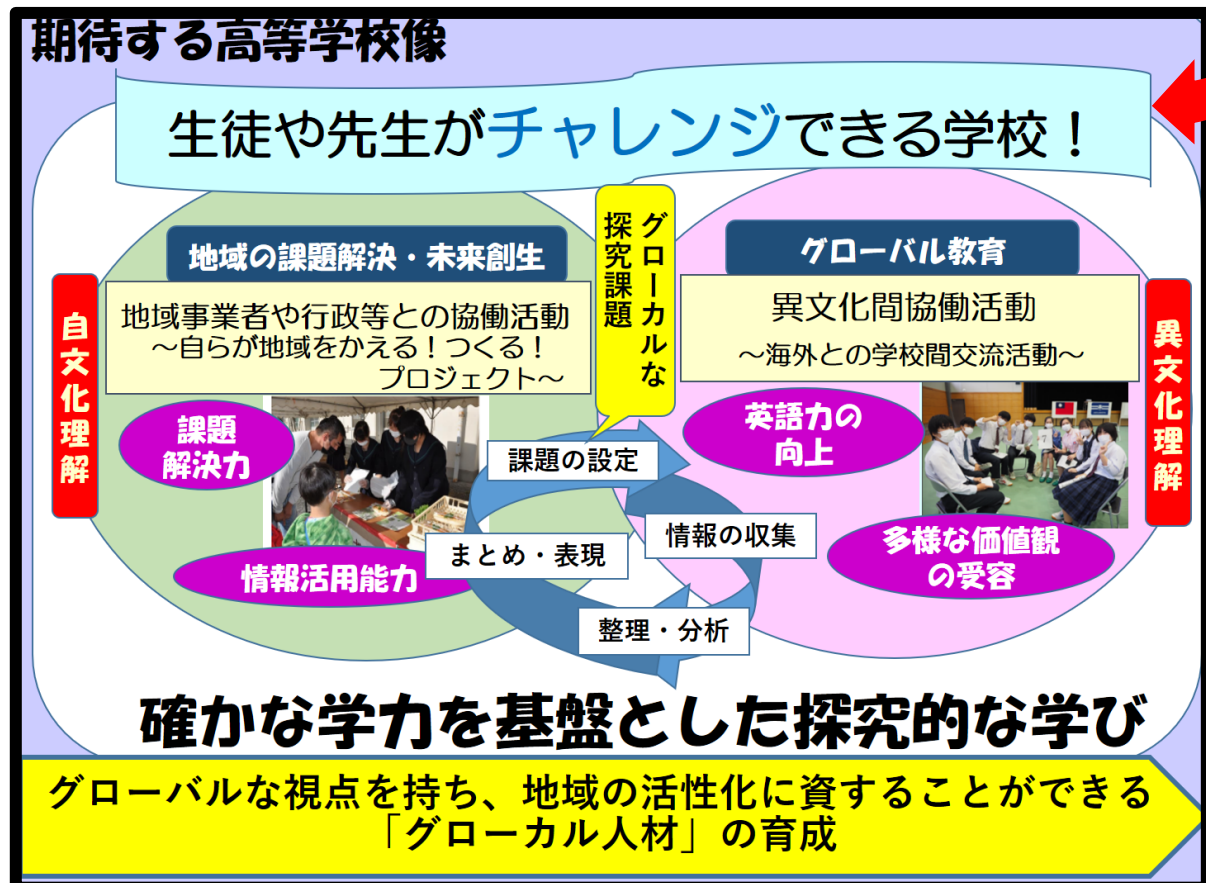
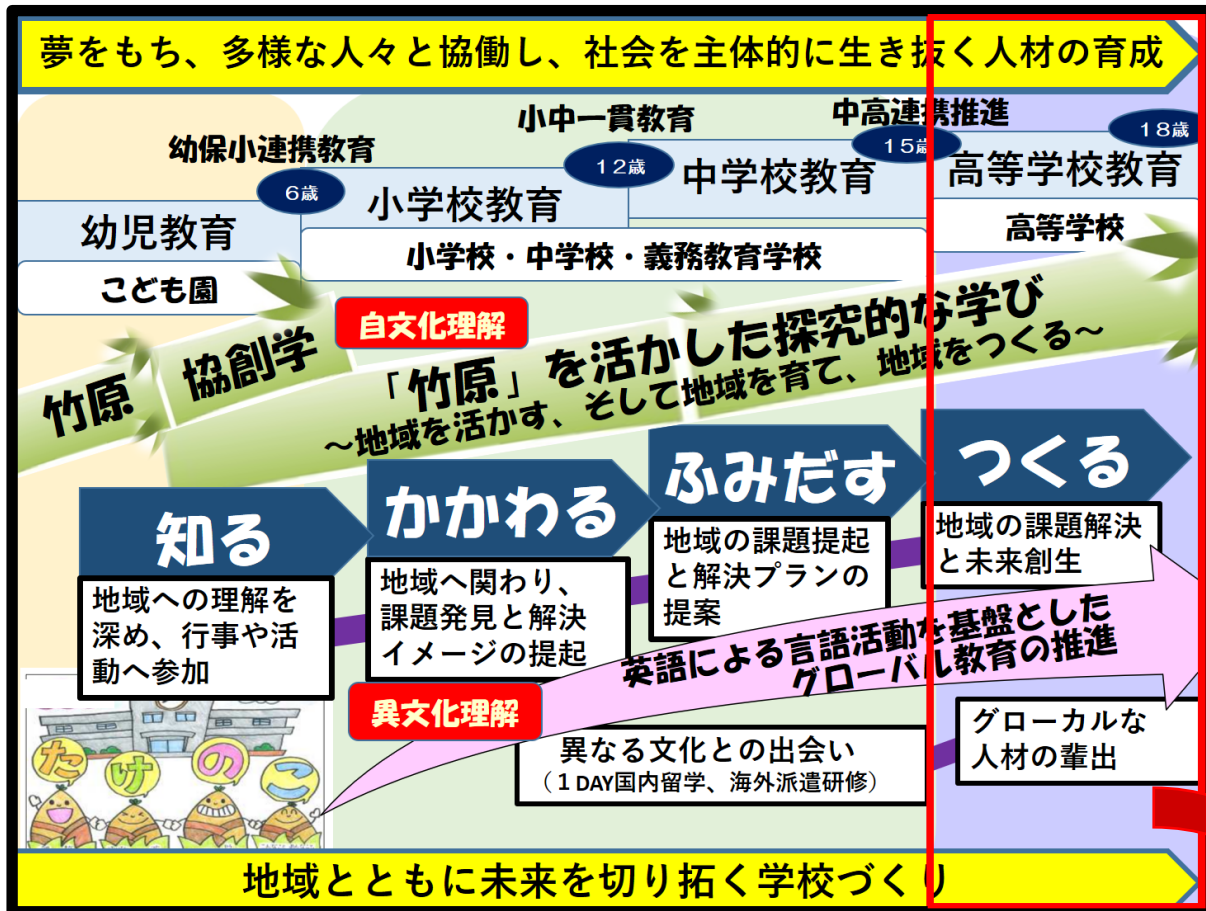
また、小中学校・義務教育学校との連携や地域人材や地元企業との連携等、様々な主体と高等学校との連携を促進させる（仮称）「地域連携コーディネーター」を設置すること。

令和7年9月19日

竹原市内の県立高等学校在り方検討委員会

委員長 胤森 裕暢

未来へつなぐ学びの節(ふし) ～Bamboo Roots Vision～



中学生等へのアンケート結果概要

I 調査概要

1 調査の対象

(1) 中学校・義務教育学校生徒アンケート

市内中学校 1～3 年生及び義務教育学校 7～9 年生 428 名

(2) 中学校・義務教育学校保護者アンケート

市内中学校 1～3 年生及び義務教育学校 7～9 年生の保護者 428 名（重複有り）

(3) 成人アンケート

令和 6 年 1 月開催「竹原市 20 歳の集い」出席者 153 名

2 調査の方法

無記名アンケート方式

【調査票配布】学校・生徒を通じて配布又は郵送

【調査票回収】オンライン

3 調査日程

(1) 中学校・義務教育学校生徒アンケート

令和 6 年 10 月 8 日から令和 6 年 10 月 22 日まで

(2) 中学校・義務教育学校保護者アンケート

令和 6 年 10 月 8 日から令和 6 年 10 月 22 日まで

(3) 成人アンケート

令和 6 年 9 月 28 日から令和 6 年 10 月 22 日まで

4 回収結果

(1) 中学校・義務教育学校生徒アンケート

回収数 359 件

有効回収数 359 件

有効回収率 83.88%

(2) 中学校・義務教育学校保護者アンケート

回収数 132 件

有効回収数 132 件

有効回収率 30.84%

(3) 成人アンケート

有効配布数 148 件

回収数 39 件

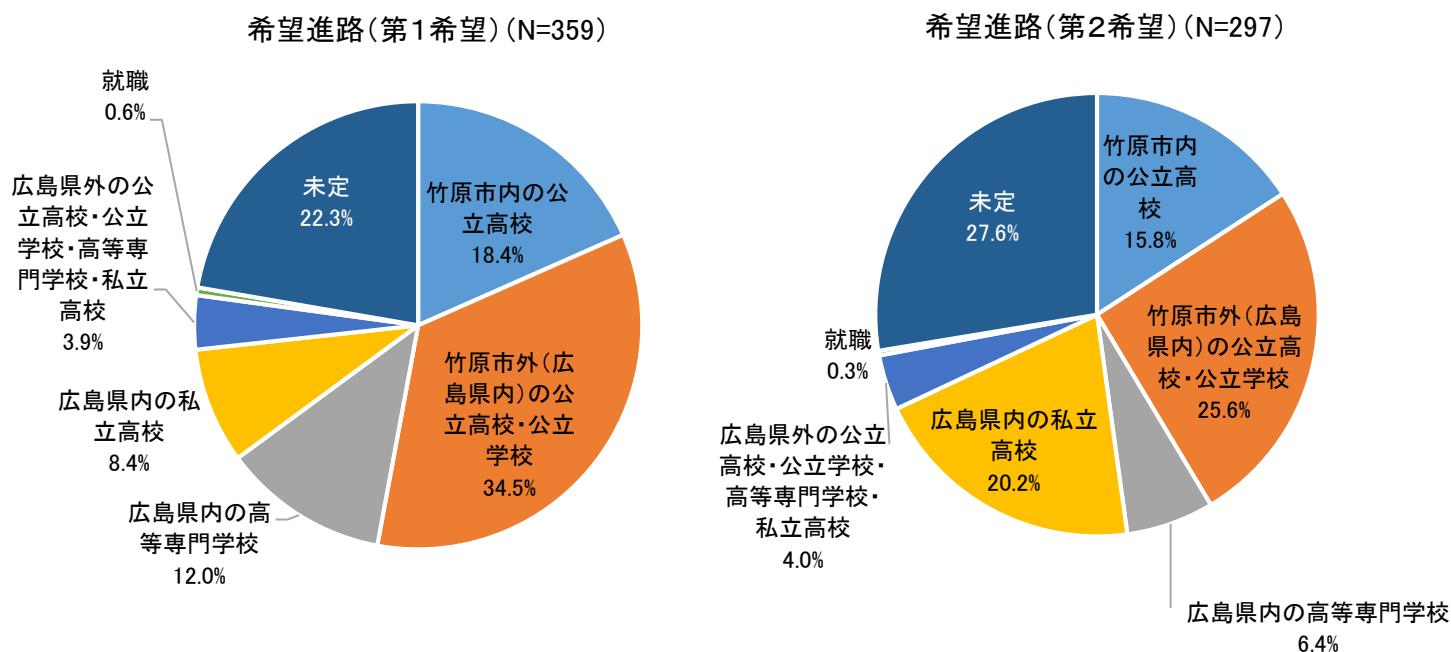
有効回収数 39 件

有効回収率 26.35%

Ⅱ 中学校・義務教育学校生徒アンケート結果

1 希望する卒業後の進路（問3）

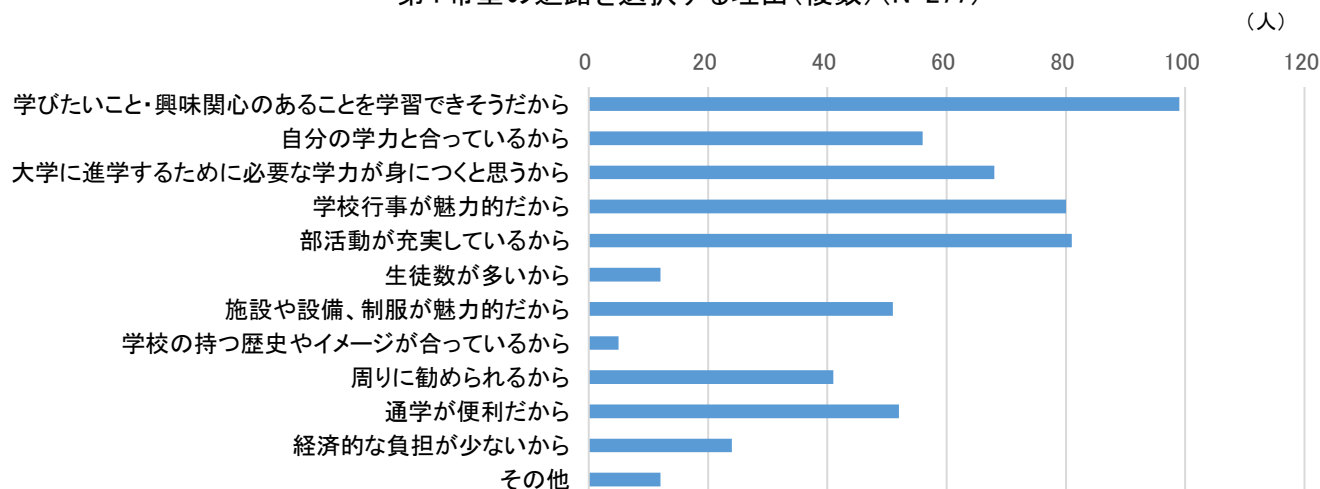
- ・第1希望は、「竹原市外（広島県内）の公立高校・公立学校」が34.5%で最も多く、未定を除くと、次いで「竹原市内の公立高校」（18.4%）が多い。
- ・第2希望は、未定を除くと、「竹原市外（広島県内）の公立高校・公立学校」が25.6%で最も多く、次いで「広島県内の私立高校」（20.2%）、「竹原市内の公立高校」（15.8%）が多い。
- ・公立高校・公立学校を希望する者が多いことが分かる。



2 第1希望の進路を選択する理由（問4）

- ・第1希望の進路を選択する理由は、「学びたいこと・興味関心のあることを学習できそうだから」が最も多く、次いで「部活動が充実しているから」、「学校行事が魅力的だから」、「大学に進学するために必要な学力が身につくと思うから」が多い。
- ・入りたい部活動では、「野球部」、「サッカー部」、「バスケットボール部」、「バレーボール部」が多い。
- ・「通学が便利だから」、「施設や設備、制服が魅力的だから」という理由も少なくない。

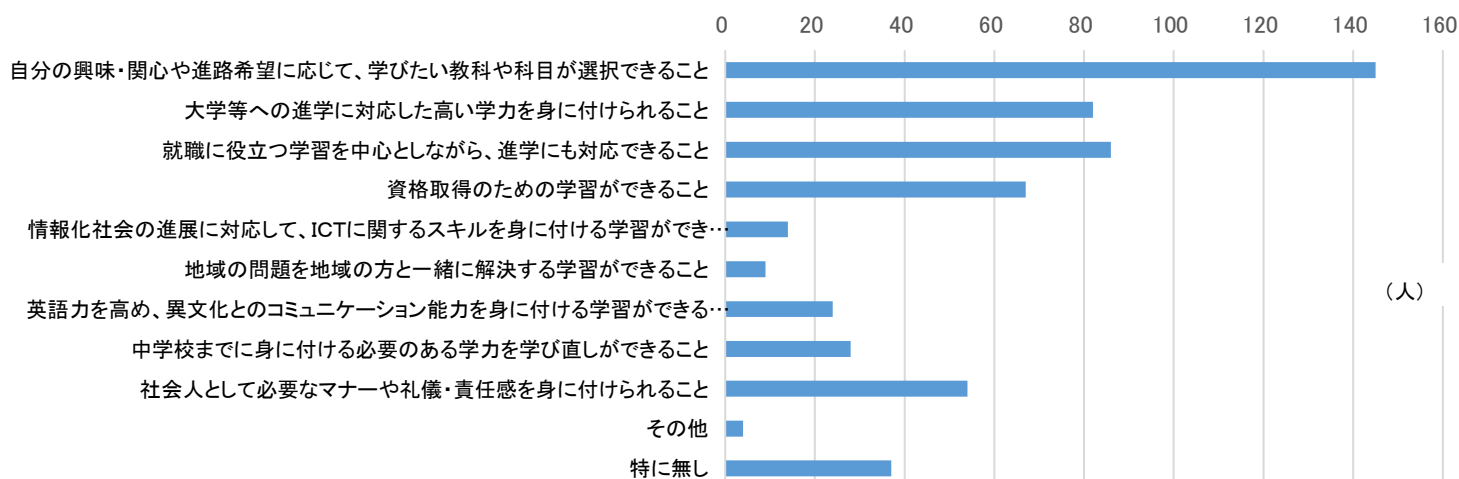
第1希望の進路を選択する理由(複数)(N=277)



3 高校に期待すること・望むこと(問6)

- ・高校に期待すること・望むことは、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できること」が最も多く、次いで「就職に役立つ学習を中心としながら、進学にも対応できること」、「大学等への進学に対応した高い学力を身に付けられること」が多い。

高校に期待すること・望むこと(複数)(N=277)

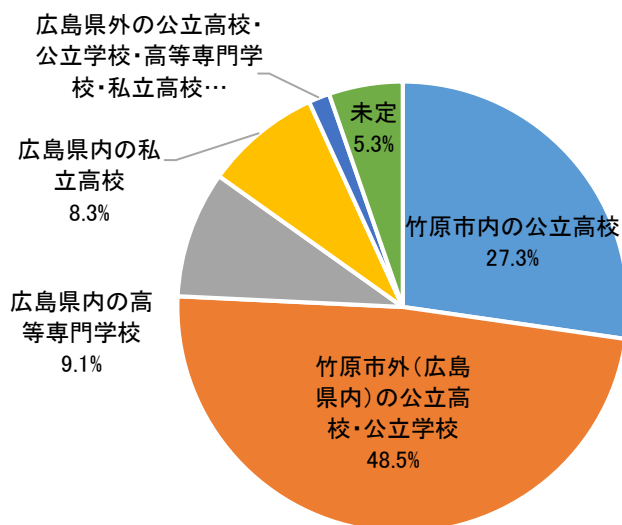


Ⅲ 中学校・義務教育学校保護者アンケート結果

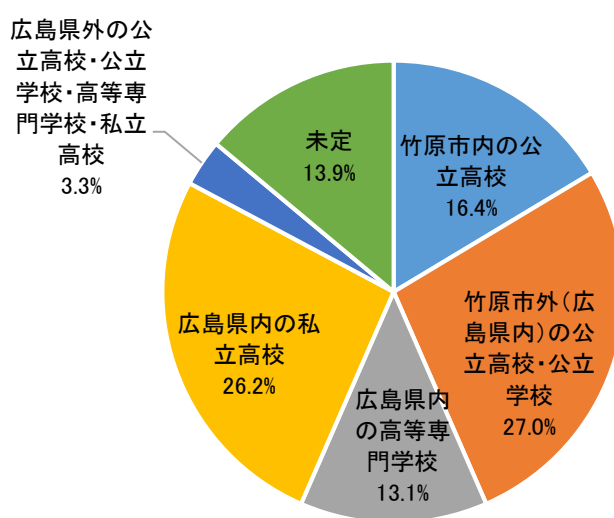
1 保護者として希望する、お子様の卒業後の進路（問3）

- ・第1希望は、「竹原市外（広島県内）の公立高校・公立学校」が48.5%で最も多く、次いで「竹原市内の公立高校」（27.3%）が多い。
- ・第2希望は、「竹原市外（広島県内）の公立高校・公立学校」が27.0%で最も多く、次いで「広島県内の私立高校」（26.2%）、「竹原市内の公立高校」（16.4%）が多い。
- ・子供と同様に、保護者も公立高校・公立学校を希望する者が多いことが分かる。

お子様の希望進路（第1希望）（N=132）



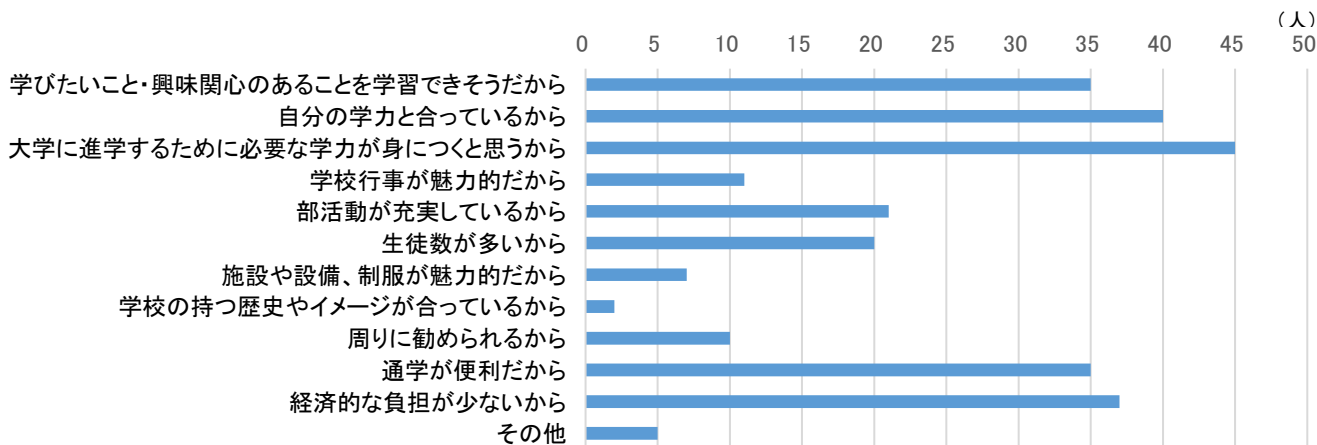
お子様の希望進路（第2希望）（N=122）



2 第1希望の進路を選択する理由（問4）

- ・第1希望の進路を選択する理由は、「大学に進学するために必要な学力が身につくと思うから」が最も多く、次いで「自分の学力と合っているから」、「経済的な負担が少ないから」、「学びたいこと・興味関心のあることを学習できそうだから」、「通学が便利だから」が多い。
- ・子供に比べ、保護者は、大学進学のための学力や、経済的負担の少なさ及び通学利便性をより重視していることが分かる。

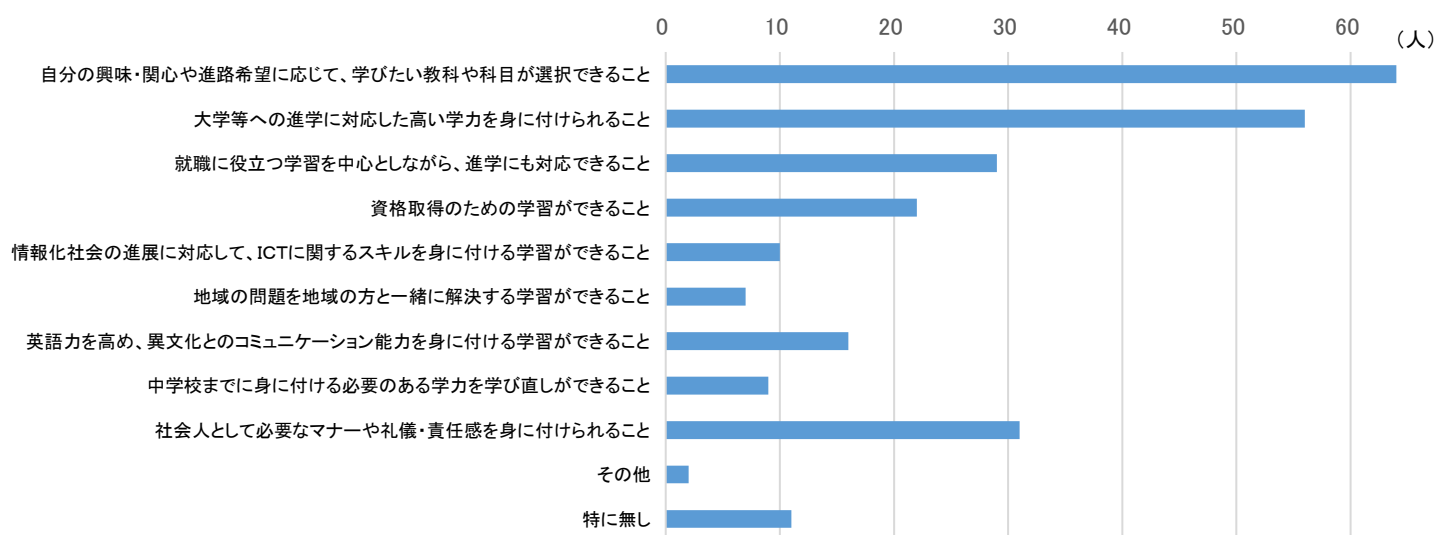
第1希望の進路を選択する理由（複数）（N=125）



3 第1希望の進路を選択する理由で特に重視すること（問5）

- ・高校に期待すること・望むことは、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できること」が最も多く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付けられること」が多い。
- ・子供に比べ、保護者は、大学等への進学に対応した高い学力をより期待していることが分かる。

高校に期待すること・望むこと(複数)(N=125)



IV アンケート結果からみた希望進路に関する中学・義務教育学校生徒と保護者の意識の考察

- ・中学生の場合、「竹原市内の公立高校」については第1希望が18.4%、第2希望が13.1%。第1・第2希望の両方にあげている生徒は3.9%と少ないが、重複を除くと27.6%、4人弱に1人の中学生が「竹原市内の公立高校」への進学を検討している。潜在力が小さいわけではない。

第1・第2の希望進路（中学生 N=359）

		第2希望				(人、%)
		市内公立	県内公立	県内高専	県内私立	合計
第1希望	市内公立	14 3.9	20 5.6	2 0.6	13 3.6	66 18.4
	県内公立	18 5.0	23 6.4	14 3.9	35 9.7	124 34.5
	県内高専	9 2.5	18 5.0	2 0.6	4 1.1	43 12.0
	県内私立	5 1.4	13 3.6	1 0.3	1 0.3	30 8.4
	合計	47 13.1	76 21.2	19 5.3	60 16.7	

(注) 有効回答全数を分母。その他の進路や進路未定を表示していないため合計は一致しない。

第1・第2の希望進路（保護者 N=132）

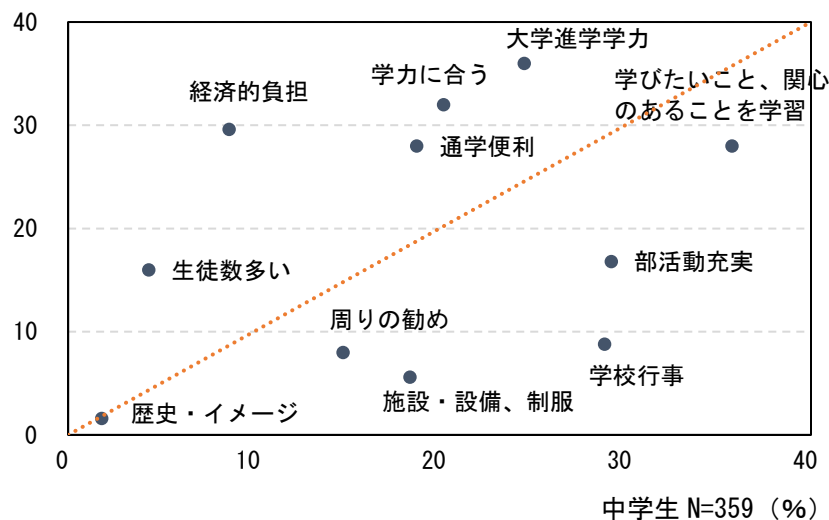
		第2希望				(人、%)
		市内公立	県内公立	県内高専	県内私立	合 計
第1希望	市内公立	9 6.8	12 9.1	2 1.5	6 4.5	36 27.3
	県内公立	8 6.1	10 7.6	12 9.1	24 18.2	64 48.5
	県内高専	2 1.5	7 5.3	1 0.8	1 0.8	12 9.1
	県内私立	1 0.8	2 1.5	1 0.8	1 0.8	11 8.3
	合 計	20 15.2	33 25.0	16 12.1	32 24.2	

（注）有効回答全数を分母。その他の進路や進路未定を表示していないため合計は一致しない。

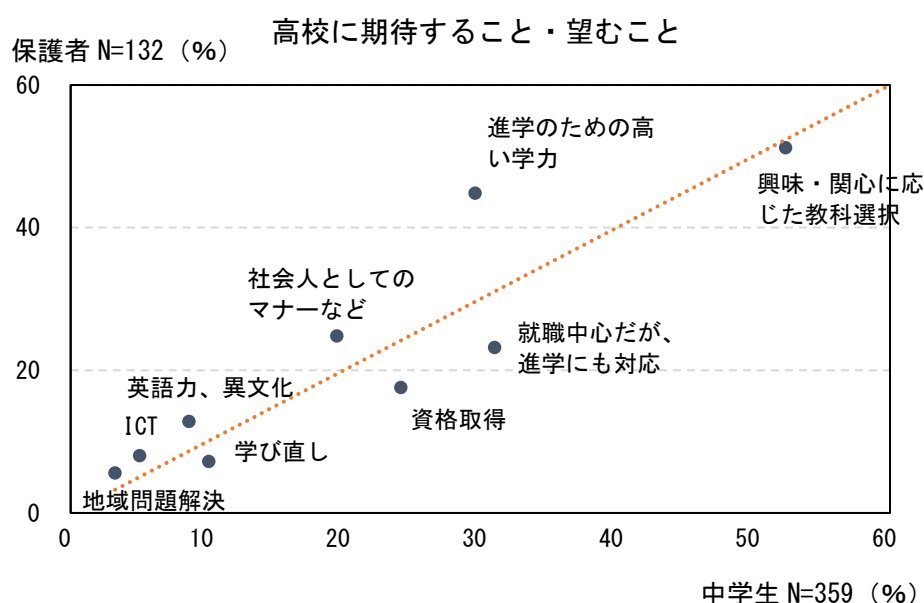
- ・保護者の場合、「竹原市内の公立高校」については第1希望が27.3%、第2希望が15.2%であり、それぞれ中学生より多い。第1・第2希望の両方にあげている保護者も6.8%、約15人に1人の割合でみられる。この重複を除くと35.6%、3人弱に1人の保護者が「竹原市内の公立高校」への進学を考えている。
- ・第1希望進路の選択理由について、中学生の場合、「学びたいこと・興味関心のあることを学習できそうだから」が35.7%で最も多く、少し離れて「部活動が充実している」29.2%と「学校行事が魅力的だから」28.9%が並んでいる。学業以外への関心が高い。
- ・保護者については、「大学に進学するために必要な学力が身につくと思うから」36.0%、「自分の学力と合っているから」32.0%であり、学力を重視している。
- ・保護者は「経済的負担が少ないから」を29.6%で第3位にあげているが、中学生の回答は8.7%にすぎない。

第1希望進路の選択理由

保護者 N=132 (%)

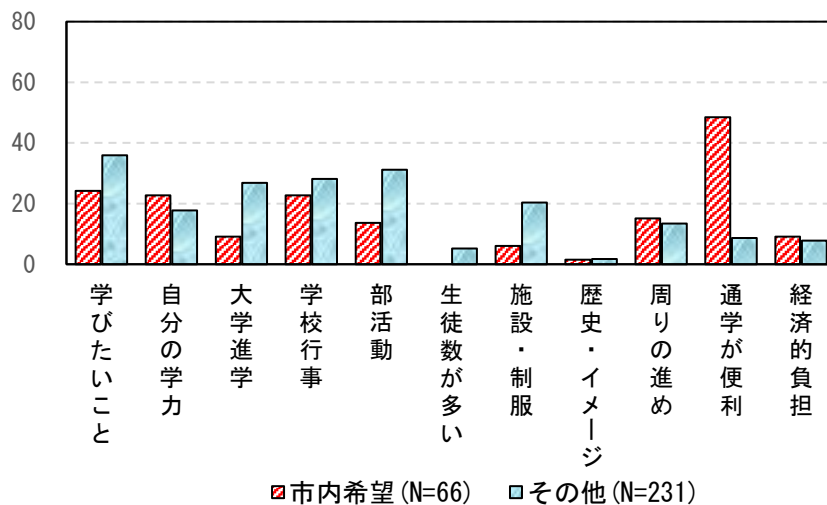


- ・高校に期待すること・望むことについて、中学生と保護者の意識はおおむね同じような傾向にある（45度線上に並んでいる）。特に第1位の「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できること」については中学生 52.3%、保護者 51.2%であり、ほとんど変わらない。
- ・中学生と保護者の間で差がみられるのは第2位項目である。中学生では「就職に役立つ学習を中心としながら、進学にも対応できること」が 31.0%（保護者は 23.2%）である。保護者では「大学等への進学に対応した高い学力を身につけられること」が 44.8%（中学生 29.6%）である。中学生・保護者の双方が「興味・関心や進路希望に応じて教科や科目が選択できること」を最も重視しながらも、第2位項目をみると、その中身は一致していないようである。



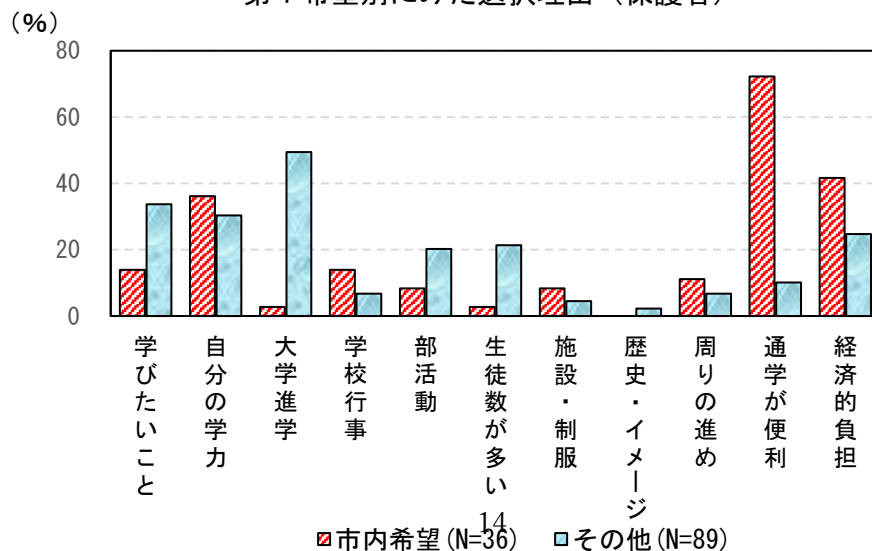
- ・第1希望に「竹原市内の公立高校」をあげた中学生とそれ以外の中学生に分けて志望理由を比較してみると、地元指向の中学生では「通学が便利だから」48.5%という回答が突出している。このほか「自分の学力と合っているから」22.7%、「周りに進められるから」15.2%という回答が市外指向の中学生より多い。いずれも受け身的な理由であり、みずから主体的に選択するという意識が弱い。

(%) 第1希望別にみた選択理由（中学生）



- ・市外指向の中学生については、「学びたいこと・興味関心のあることを学習できそうだから」35.9%、「部活動が充実しているから」31.2%、「学校行事が魅力的だから」28.1%など、上位回答の差が大きい。これは第1希望の進路が分かれているからであると見られる。
- ・第1希望に「竹原市内の公立高校」をあげた保護者とそれ以外の保護者に分けて志望理由を比較すると、中学生に比べて差が大きい。地元指向の保護者では、特に「通学が便利だから」72.2%、「経済的な負担が少ないから」41.7%という回答に集中している。反対に市外指向の保護者では、2人に1人の49.4%が「大学に進学するために必要な学力が身につくと思うから」と回答している。
- ・「自分の学力と合っているから」という回答は地元指向36.1%、市外指向30.3%であり、あまり差がないように見えるが、その内容は異なるとみられる。
- ・地元指向の保護者では「学校行事が魅力的だから」という回答が市外指向の保護者の回答のほぼ2倍の13.9%である。突出して高い数字ではないものの、見る人は見ていることを示唆している。

第1希望別にみた選択理由（保護者）

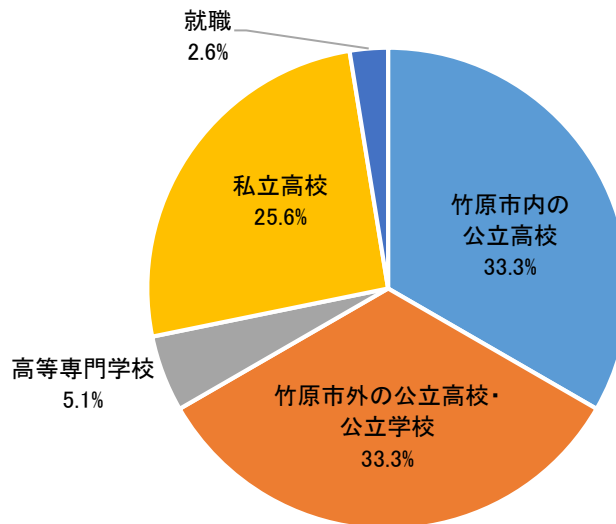


V 成人アンケート結果 ※サンプルサイズが小さいため注意が必要である。

1 義務教育修了後の進路（問3）

- ・義務教育修了後の進路は、「竹原市内の公立高校」（33.3%）、「竹原市外（広島県内）の公立高校・公立学校」（33.3%）が最も多く、次いで「私立高校」（25.6%）が多い。

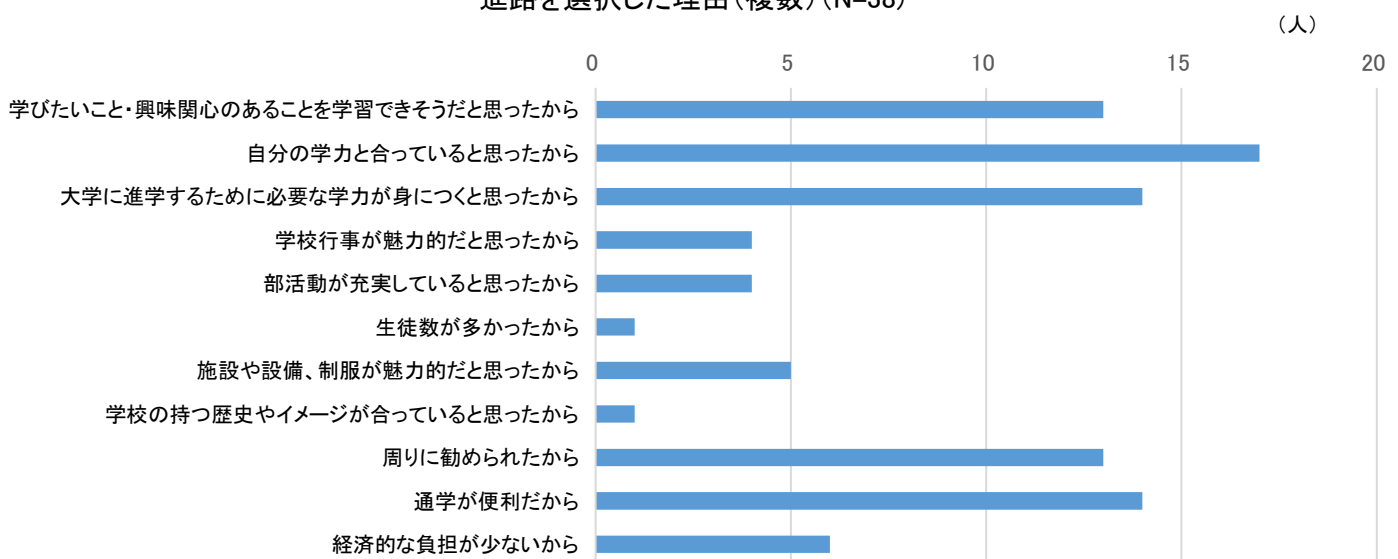
義務教育修了後の進路(N=39)



2 義務教育修了後の進路（学校）を選択した理由（問4）

- ・義務教育修了後の進路（学校）を選択した理由は、「自分の学力と合っていると思ったから」が最も多く、次いで「大学に進学するために必要な学力が身につくと思ったから」、「通学が便利だから」、「学びたいこと・興味関心のあることを学習できそうだったと思ったから」、「周りに勧められたから」が多い。
- ・自分の学力とともに、周りの勧めも進路選択に大きく影響したことが分かる。

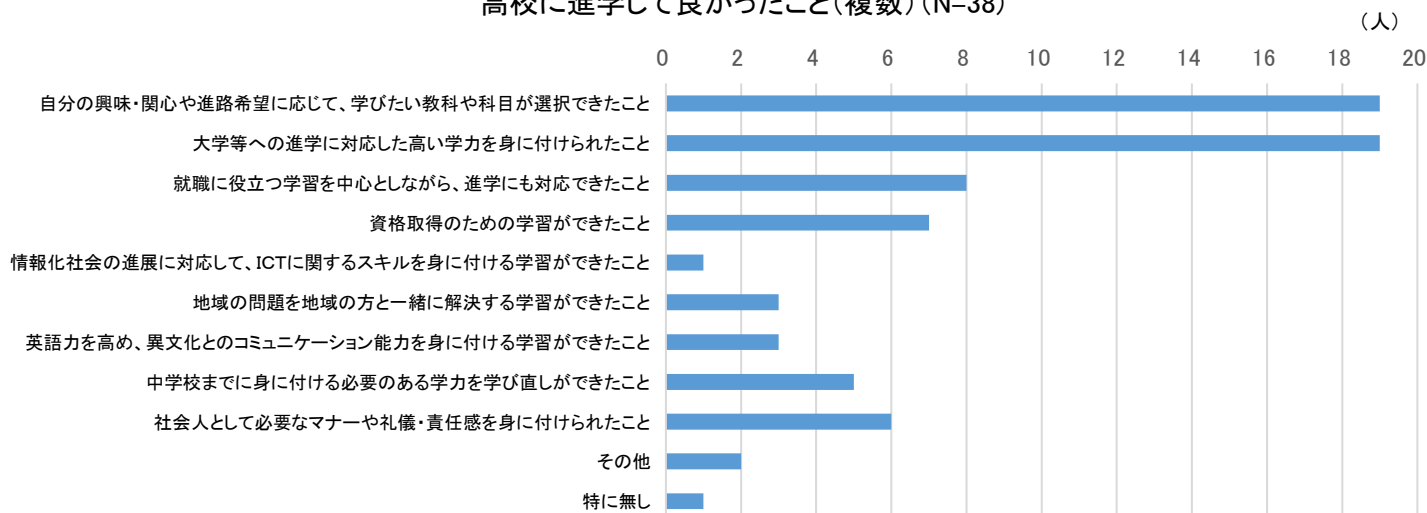
進路を選択した理由（複数）(N=38)



3 高校に進学して良かったこと（問5）

- ・高校に進学して良かったことは、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できたこと」、「大学等への進学に対応した高い学力を身に付けられたこと」が最も多い。

高校に進学して良かったこと(複数) (N=38)



4 高校の満足度（問7）

- ・高校の満足度は、「満足」(36.8%)、「どちらかといえば満足」(52.6%)を合わせると、約9割となり、多くが満足している。

高校満足度(単数) (N=38)

